

さいき切支丹ロードを歩く(一)

〜五十川千代見氏の足跡を歩く〜

児玉潤子

(会員 佐伯市中江町)

二〇一六年秋、大分市で第六回大友宗麟祭りに遭遇した。その主催団体キリシタン・南蛮文化交流協定協議会(注二)に佐伯市は参画していない。『るいさの墓』がある、にもかかわらず、である。史談会の常任委員会ですれに触れると、「佐伯にはもう(他には?)切支丹墓は無い。」こともなげな発言が聞かれた。

史談会誌を読み返していた私は五十年ほど前、推定切支丹墓として訪れ、スケッチしていた紙面に出会っていた。五十川千代見氏(注二)は、郷土芸能伝承の調査で随分と参考にさせていただいた書(著者である。八三歳でご健在である)。

二月四日、ご自宅の提内ひきうちに伺いこの地の切支丹墓

(注三)とされる一角を案内して頂いた。入り口付近に数基推定キリシタン墓が寄せてある。奥にさらにあるとのことで、道が消えた竹林を進み、寄せ墓のピラミッドをいくつかり過ぎすが、倒れた竹に阻はまれ百メートルも進めなかつた。

数日前に訪れた宇藤木うとうぎ(注四)についてもお聞きした。

すでにコンクリート壁が山の根を覆い、五十川氏のスケッチの場所に寄り付けないのであった。個人宅から窺うと林の中に複数の墓碑がみえ、コンクリート壁の手前に造成された側溝にはいくつかの墓碑が落ちている。しかし渡れない。しかも、数名の地区の方に伺うが「聞いたこともない。」「ここはキリシタンはおらんよ。」と言つ。

あの人なら歴史に詳しいであろう、と教えて頂いたのが偶然地主さんであった。区長さんに連絡を取って貰い、後日案内を乞うことになった。

私自身も見た事も聞いたことも無いのであるから、

まずは切支丹墓について学ばねば：と、大友義統よしむねの支配地、野津周辺を探る。

津久見史談会長の木村武司氏によると、切支丹墓については臼杵市教育委員会の神田高士氏が第一人者だと言う。

木村氏は「従来のキリシタン墓についての説くつがえが覆った。」(注五)と言われたが、初心者の中には何のことやらである。

神田氏のお名前は意外なところで存じ上げている。ロシアで発見された大砲が大友宗麟の発注したものであると現地で確認、報告された方である。

後日、神田氏には鍋田なべたの切支丹墓に案内して頂く。切支丹遺跡である下藤しもふじ(注六)は既に埋め戻しており、掻懐かきだまの切支丹墓ほど洗練されていない、いわゆる隠れていない、原始的ともいえる墓碑を教えていただいたわけである。

鍋田行には佐伯市の図書館の歴史講座担当で切支丹についての資料が少ないとほやいておられた吉田勝重氏に声をかけた。下藤で神田氏と待ち合わせ、たまたま居合わせた、これまた史談会員の戸高厚司氏と

四人で鍋田に向かう。国道に標記も無く、石垣の上あり、案内が無ければ見過ごすと思われる。いわゆる切妻型きづまで凝灰岩の伸展墓せんとん。装飾も銘も無い。素朴そぼく、としか言いようがないが、神田氏は美しいと表現された。



野津町鍋田切支丹墓

二月十六日豊後大野市後田^{うしろだ}。切支丹墓をネットで探すうちに見つけたのがここであった。



豊後大野市後田大神芦刈家切支丹墓地

道を尋ねた方が、俗に『なまこ墓』と呼ばれる墓の持ち主大神芦刈家のご当主であった。うつすら苔むしてまさになまここのようで、名も無く、つましく寄り添って可愛いらしいという印象を持ってしまふ。

楢田に近い^{まも}摩耗された凝灰岩の伸展墓。深さは不明。

芦刈氏によれば別府大学の田中祐介先生が調査に来られ、数cmもある分厚い調査書を送ってきた、と言われる。

二月十八日 宇藤木。

地主新納氏の案内で山に入る。吉田勝重氏もお誘いした。枯葉の積る急斜面で足場に注意しながらの探索である。

五十川氏の記載に期待して探しやすいかと思われたが、ほとんどが寄せ墓にしてあり、これだと思われる画像も、後日、神田氏にお見せすると、

「ん〜！、なんとも。」

「別府大学の田中先生なら何か意見を頂けるだろう。」
というご発言であった。

宇佐にある県立博物館の県南の地図には、史跡の記載がないのをご存知の方はおられるだろう。三枚ある地図すべてに県南の史跡は無い。私は恥ずかしいと感じたが、この状況を生んだのは一体何なのか。まさかここを訪れたことのない行政関係者がいないとは思われないが……………。

田中先生が県の教育委員会に関わりがあると知り、この疑問や憤りを伝えた。果たしてお返事があり興味を示された。

田中先生がご都合を付けて下さり、再度、宇藤木へ。吉田勝重氏は予定があり来られなかったので、佐伯歴史資料館の甲斐玄洋氏をお誘いした。

なんと、田中先生は宇藤木に降り立った途端、真ん前のバス停近くの『イシ』に、最初から目を付けられ、「恐らく切支丹墓であろう」と。

そして急斜面に残る石たちは、供養塔ではあるが確

たるものは見つからなかった。

五十川氏の記事にも確かに「近年、祈禱師のお告げで伏墓を立てた」とされるが、五十川氏が宇藤木に入った時、既にバス停近くに建てられた『イシ』はあったそうであるから、本来、五十川氏がスケッチして数えた十数基プラス、バス停近くの『イシ』が墓地にあったと思われる。

田中先生のお話では、時代が降ると形状が短くなつていく傾向があつたとのこと。確かに竹田の西光寺の切支丹墓とされるものも、京都大学博物館のものも短い蒲鉾型であつた。



左上から見る立てられた状態



切支丹墓に後世位牌型の碑を追加している越智河野氏墓

この日、田中先生は宇藤木から二キロメートル程の、姫嶽合戦で敗れ落ちのびた四国伊予の越智河野氏の末である方の墓地に連れて行って下さった。



下直見水口、曾宮家旧墓地

二月二十六日下直見水口みなくち(注七)墓地に。その画像を田中先生に送る。折り返し返信、「これは写真を見る限り本物ですね。」の一言であった。

寄棟型の凝灰岩伸展墓の半分ほどの長さである。この旧家の家紋が宇藤木の墓地の持主、河野氏と同じ紋でありながら、お互い繋がりはないと言われる。

【注 釈】

注一、国東市・日出町・大分市・臼杵市・津久見市・竹田市・由布市の七市町で構成
年会費三十万円 年数回の会合が義務付け
られている。

注二、著書に『佐伯史談 杖（ふるさとを語る）』『大
越川流域の民俗と信仰』

注三、『佐伯史談』一六号 一七頁 「推定潜伏切
支丹墓」 五十川千代見

注四、『佐伯史談』二四号 一五頁 「宇藤木で発
見した切支丹墓」 五十川千代見

注五、『臼杵史談』一〇四号 一頁 「日本のキリ
シタン墓研究の現状」田中祐介 二〇一四

注六、『下藤地区キリシタン墓地』 臼杵市教育委
員会 二〇一六

注七、『直川村誌』 三〇九頁〜三二四頁 佐伯藩
のキリシタンと直川

『佐伯史談』一七号 一七〜一八頁 「下直
見のキリシタン墓」 五十川千代見

